各都道府県からの質問

- Q. フィールド RC 男子のスターバッジの申請点は全て Marked の公認記録のみなののでしょうか？ Unmarked の記録は申請には使えないのでしょうか？
- A. フィールドのスターバッジ申請については、全部門・種別ともマーク12標的の点数だけです。アンマークは対象になりません。
(競技規則第5章122条1項 参照)
- Q. 監督・コーチ申請する場合、申請者は全日本アーチェリー連盟へ選手・指導者登録する必要があるのでしょうか？
- A. 競技場内に入場できる監督コーチについては、全日本アーチェリー連盟への競技者登録または指導者登録について義務付けはしていません。
保護者の方や、場合によってはトレーナーメンタルコーチなど、アーチェリー連盟に登録されていない方が入場される場合もあります。
監督・コーチ申請は、本人(小中学生の場合は保護者・所属先など)の申請により、所属アーチェリー協会(連盟)を通じて申請して頂きます。
ただし、規定(特に服装等)は十分ご理解の上、申請いただくようお願いいたします。
- Q. 弓具を組み立て、点検をしているのだと思いますが、弦を引いてバンバン大きな音を鳴らしている人がいますが、この行為は安全規定第9章第4節及び第5節に当たらないのでしょうか？
射場で準備をしている人達がびっくりする人もいます。
私も何度かドキッとしたことがあります。
明確にした文言があればいいと思いました。
- A. 弦を10～15cm 程度引いて軽く空射ちすることは、リムが正しくハンドルに接合できているかの確認行為かと思えます。
リムの接合が不十分であったり、正しく接合できていなければ、重大な事故につながる危険性もありますので、安全確認には必要な行為と考えられます。また、10～15cm 程度の引き尺では、安全規程 第9章第4節及び第5節で言う「素引き」には当たらないと思えます。
但し、室内などでは音が反響し、大きな音になってしまうことがあり、突然想像もしない方向から発射音のような大きな音が聞こえると、驚かれるようなことになることはあるかと思えます。
また、もっと大きく引いて空射ちすると、当然もっと大きな音が出ますし、リムにも負担をかけて逆に破損の原因になることも考えられます。このような行為は、エチケットにも反しますし、危険行為でもあるかと思えますので、注意を促してください。
お互いが安全を確認しあい、不注意な競技者がいれば気が付いた人が注意することは重要なことです。
- Q. ある選手の所属会社から10名程度の応援団が付き、矢がゴールに命中するたびに応援団から大きな拍手喝さいが送られていました。ただ、ほかの選手は応援団などなく、この選手のところだけが異様に浮き上がっており、ほかの選手も気になるのか大きな歓声が上がると応援団を振り返って見たりしていました。トーナメントの場合は、ある程度の声援、応援はありますが、平打ちの場合でも同じような考えでしょうか？
行射中のこのような拍手や声援は競技進行上、問題ないのでしょうか。ルール等がありますか？現実としてインターハイやインカレなど学生主体の大会では行射中も大きな声援が飛びますし、大合唱が始まります。他の選手から『集中できないのもう少し静かにしてほしい』というクレームが上がった場合、どう対処すればよいのでしょうか。もし『他の選手に迷惑が掛からない程度であれば OK』であれば、その『程度』は誰が判断するのでしょうか。
- A. ご質問の内容からすると、観客席(競技場外)からの応援かと思えます。

競技場外からの応援については、競技規則上、対応できる規則がありません。

原則として、競技場外からの応援は、「騒音」と判断し、選手からのクレームがあったり、競技の進行に支障があるようであれば、会場係などがもう少し静かにするようにお願いに行くことになるかと思えます。

状況は千差万別かと思えますので、一概に基準を設けることは困難です。競技に支障があるかどうかの判断は、その大会の競技委員長の判断になるかと思えます。

競技委員長は、その競技会を統括する責任者ですので、細かく明文化されていない事案の判断は全て競技委員長に委ねられるとお考えください。

Q. リカーブの用具規定につきましてお教え願います。

競技規則第10章第202条におきましては、「常識的に「弓」という言葉に適合していれば、どのような形状でも使用することができる」との記載がありますが、リム(=板ばね)の代わりにコイルスプリングを用いることは規定上可能でしょうか？

A. 競技規則では、第202条1項に下記のようにあります。

「弓は、ターゲットアーチェリーで使用されるもので、常識的に「弓」という言葉に適合していれば、どのような形状でも使用することができる。」

「リム(=板ばね)の代わりにコイルスプリング」とのことですが、競技規則の文言の上では問題ないように思います。

但し、競技規則の他の項に下記のようにあります。

第103条5項 審判員

(3)「競技の開始前(時刻はプログラムに記載される)、およびそれ以後は競技中随時、全競技者の用具を検査する。」

上記にあるように、実際には現物を審判員が確認する必要があります。

審判員は、検査するとき、競技規則に則ったものであるかを確認すると同時に、“安全に使用することができるか？”も確認します。

Q. 会員登録についてご回答お願いします。

前年度に全ア連会員登録している競技者について

今年度は「会員(休会)」となる場合、その競技者が保持している審判員資格はどのような扱いになりますか。

・休会中は審判員資格を維持できますか？

・休会中に審判員資格を更新することはできますか？

A. 公認審判員規程 第9条(資格の喪失)に、下記のようにあります。

公認審判員は、次の各項のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

1 更新登録しなかったとき。

2 加盟団体の所属を失ったとき。

3 2年以上競技役員・大会役員の任に当たらなかったとき。もしくは、WA・WAAまたは本連盟および加盟団体が開催する審判員研修会に、2年以上出席しなかったとき。

4 理事会において、公認審判員として不適格であると認められたとき。

5 本条2～4項に該当し、公認審判員の資格を喪失したときは、加盟団体長は当該公認審判員にその旨通知し、且つ本連盟に通知する。

本条第5項に該当し、公認審判員の資格を喪失したときは、当該公認審判員にその旨通知する。

6 前項の規程によって公認審判員の資格を喪失した者は、通知を受けた日から1ヶ月以内に、本条2～4項に該当する者は加盟団体長に、本条5項に該当する者は本連盟会長に再審査を請求することができる。

本条5項の規程によって公認審判員の資格を喪失した者は、4年間は再申請することができない。

当該の方は、「休会中」とのことですので、来年度(2019年度)以降の復帰を見据えてのことと思えます。

従って、2. の「加盟団体の所属を失ったとき」には当たらないと判断します。

3. 及び4. については、どちらも「2年以上」との期間を設けていますので、今年度(2018年度)休会されて

活動がなかったとしても、昨年度、もしくは来年度復帰されて審判の任に当たる、研修会に参加できれば、資格は維持できます。

更新については、4年毎ですので、次回更新は2020年になります。従って当該者の場合、2019年度に復帰し、2年以内(2018～2019年度)に審判の任に当たる、研修会に出席すれば、更新することができます。

Q. 第204条(使用できない装置)3について質問です。

競技者の用具はいかなる種類のカモフラージュ模様を含んだものであってはならない」とありますが、この「カモフラージュ模様」の定義と実質的なガイドラインを明示願います。

具体的には「白単色」は「雪上迷彩」であり、一般的な軍用及び狩猟用のカモフラージュ模様ですが、これは204条3に当てはまりますか？

同じく単色の「ライトグリーン系」「ライトブルー系」「ダークグリーン系」「ダークブラウン系」なども軍服に採用されていることから軍用のカモフラージュ模様と判断できますが、これらはいかがでしょうか？その他、一般的に販売されている弓のグラデーションカラーの物ですが、カモフラージュ模様とそうでないものの境界が不明です。

A. 競技規則には、「…いかなる種類のカモフラージュ模様を含んだもの…」(第204条3項)「色彩に関係なく…カモフラージュ模様の衣服と用具…」(第214条1項)とあります。

文章にありますように、「カモフラージュ模様」という「柄」が対象になります。一般的な「カモフラージュ模様」は、自然の風景に溶け込むように、緑、茶、グレーなどの色が多いようですが、黄色や赤などの色が含まれるものもあり、多岐にわたります。色によって線引きするのは非常に困難ですので、「色彩に関係なく」全ての色が対象となるとお考えください。

逆に、貴殿の文中にあるような単色のものは「模様」＝「柄」ではありませんので、対象外になります。

ご自分でもお判りかと思いますが、「雪上迷彩」であるから「白単色」が規則違反になるとは考えられません。単色の「ライトグリーン系」「ライトブルー系」「ダークグリーン系」「ダークブラウン系」についても同様です。軍用の衣類に採用されている＝カモフラージュ模様ではないのは明白です。

また、一般的な「カモフラージュ模様」でない抽象的な柄やグラデーション・マルチカラー(例えば HOYT 社の FUSION など)は対象ではありません。これは、以前から別項で使用が許可されている「多色に塗り分けたハンドル」(第202条1項)に相当するものです。

市場に出回っている「カモフラージュ模様」は多岐にわたりますので、明確な基準を文章で表現するのは非常に難しいものがあります。一般的な認識のカモフラージュ模様(＝迷彩柄)を対象としているとお考えください。

このカモフラージュ模様の衣服・用具の使用禁止に係る条文の主たる目的は、「安全確保」の意味が大きいと考えます。

Q. CP の公認競技ルール「的紙の設置方法」についてお問い合わせをお願いします。

公認試合 CP にて参加者が5名おり、①的 ABC、②的 AB というマルチ形式配分にて競技設置が行われました。

今回、②的 AB に高さ155cm での紙が2枚設置されていたため、「的枚数が2枚であれば公式ルールの高さである130cm に設置するのではないか」と審判に問い合わせしましたところ、一度は審判が130cm に行うとし、設置変更を決定しました。すると①的競技者1名から反対意見がでて、「マルチ的の参加者がいる以上、公平性から全ての的をマルチ形式にて行うべき」「本来であれば参加者が居ない空き立番にも的を設置し4枚で行うのがルール」と審判に意見し、審判も判断ができない状況となりました。なおの紙は参加者人数部分しか用意が無いとのことでした。他に「130cm で競技ができるのにわざわざ155cm という的中央から外れた位置で競技をする意味が分からない」という意見もでしたが、今回は①的の反対意見競技者が異様に騒ぎ立てたため、他参加者や審判が折れて、高さ155cm で4名、105cm で1名が競技を行う形態となりました。このようなケースではどのように的紙を設置すべきでしょうか。

A. お問い合わせの文から推察しますと、状況は、

① 2立(AB-CD)の競技会

- ② CP部門の参加者は、5名で2標的を使用
  - ③ CPの1的はAB-Cの3名、2的はABの2名
- ということでしょうか？

結論から言いますと、上記のような状況だとすれば、今回実施された方法は競技規則に適合した方法になります。

1的は155cmと105cmの上下2段に貼って、2的は130cmに2枚に貼るとするのは、反対意見を言われた方がおっしゃるように公平ではありません。

上下2段に貼って、5名がそれぞれの段に振り分けられるのは、予選の順位や主催者の厳正な抽選などによって振り分けられることになります。

また、今回のように2立で参加者が5名の場合、通常は上段4名・下段1名にはせず、できれば1的:AB-C、2的:A-C等のように、上下の人数をバランスよく配置すべきかと思います。空的の位置にも的を張って統一すべきです。

- Q. シューティングラインに立ち、矢をストリングのノッキングポイントに付けて弓を構える際に矢の角度がかなり上を向いて構えた場合ですが、矢を付けて角度を付けて構えても、ドロ잉する時に矢が的に向いていれば、ルール上は問題はないのですか。
それとも矢を付け角度を付けて構えた時点でルール上は失格なのでしょうか。

- A. この件に関することは、競技規則には下記のように記載されています。
競技者は、弓を引く時および引き戻すとき、いかなる場合であっても、矢をセーフティーゾーンまたは安全管理用設置物(オーバーシュートエリア、ネット、壁等)を超えると審判員が判断するような引き方、戻し方をしてはならない。競技者が、この引き方、戻し方を続ける場合、安全のため、直ちに審判長、競技委員長、DOSのいずれかが、行射の中止と競技場からの退去を命ずる。(第205条19項)
危険な方法でドロ잉を繰り返すと複数の審判員が判断した場合、審判長またはDOSは、その競技者に対してただちに行射の停止を求め、失格とする。(第208条9項)
ご質問の文章から状況を正確に、また詳細に判断することは非常に難しく思います。
競技規則にもありますように、基本的には現場の審判員の判断になります。
かなり上を向いて構えた状態でそのまま引いた場合、セーフティーゾーンを超えると審判員が判断すれば、罰則の対象になります。
また、罰則(行射の中止競技場からの退去、失格など)の通告は、審判長、競技委員長、DOSのいずれかからになります。基本的に審判員が直接通告することはありません。

- Q. 審判登録について教えてください。
高校の先生で、顧問登録をしているのですが、個人での選手。指導者登録はしていませんので、登録番号はありません。この場合、審判登録は可能でしょうか？

- A. 顧問登録は、高体連独自のシステムで、全日本アーチェリー連盟の登録システムとの関連性はありません。
公認審判員規程 第6条4項に、
「本連盟の会員登録者(競技者又は指導者)で公認審判員として認定された者は、本連盟所定の認定登録申請用紙に必要事項を記入し、登録料を納付することによって、公認審判員として登録される。」
とあります。
上記にありますように、本連盟への登録が前提になります。

- Q. 2018年度の新規1級審判認定試験ですが、2級の審判資格を2013年10月に取得した審判員に受験資格はありますか？

- A. 受験して頂くことは出来ます。
審判員の経験年数は、その資格の取得年度で判断しています。